

株式会社東京精密 2025 年度(2026 年 3 月期) 第 1 四半期 決算説明会
質疑応答 要約

2025 年 8 月 4 日 開催

- 本資料は、上記日時に開催された 2025 年度(2026 年 3 月期)第 1 四半期決算説明会(Web 開催)の質疑応答の内容を、当社の判断で要約したものです。
- 本資料に記載されている情報は、決算説明会開催日時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、今後の当社の実際の業績が、本資料に記載されている情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
- なお、本資料では、半導体製造装置(または同セグメント)を「SPE」、精密計測機器(同左)を「計測」と表記します。

1. 2025 年度上期の SPE 受注高見通しを、5 月発表予想から引き下げた背景について、詳しく伺いたい。

- HBM 向けプローバの案件で 7-9 月期に計画していたものが 10-12 月期にシフトすると考えていることによる。なお、売上は、業績予想を据え置いた通り、達成確度が高いと考えている。
- シフトの背景として、市場での HBM3 の需要が堅調、かつ歩留まりの改善により、HBM3E~HBM4 向けの設備投資が当初の見込みより遅れていることが挙げられる。
- とはいえ、HBM の 3E~4 への移行は必ず起こると考えているし、この移行にあたり、特にプローバは新規装置が必要となるので、あくまでタイミングの問題であると考えている。また HBM 世代交代に伴うプローバ需要は一定の持続性があるものと考えている。
- 上期の SPE 受注高見通しを 5 月予想から引き下げたとはいえ、7-9 月期受注高は 4-6 月期比で 10%程度増加すると見込んでいる。これは足許で短納期の案件(特定のデバイスや、地域に偏ったものではない)が増加しており、受注高の上積みが見込めるため。

2. 「HBM の次世代への移行に伴い、新しいプローバが必要となる」、という考えについて、その背景を伺いたい。

- 一般的にデバイスの電気テストは発熱を伴うが、これを放置したまま電気テストを行うと、あるべきテスト結果が得られないため、プローバで制御し、適正な温度に保つ必要がある。
- HBM を含む最先端のデバイスでは、この発熱が無視できない量となっており、さらに HBM では、世代が移行するたびにその発熱量が数千ワット単位で増加する。このため、HBM3 の発熱量に対応するプローバであっても、3E~4 ではさらに高精

度の温度制御が要求されるため、プローバの新規需要につながると考えている。

3. 生成 AI、HBM に関する数字を整理してほしい。

- 「生成 AI を含む HPC 関連」という表現で説明する。
- 2025 年度 4-6 月期・受注高ならびに売上高実績：SPE の受注高・売上高に占める構成比は約 25%となった。
- 2025 年度上期・受注高見通し：2024 年度下期実績比で、+1 桁%の想定であったところ、前述の理由から約△20%の見方に変更した。
- 2025 年度上期・売上高見通し：同 +30%程度の増加の想定であったところ、+30%後半の見方に変更した。
- 2025 年度下期・受注高見通し：2025 年度上期見込比で、+40%後半を想定。
- 2025 年度下期・売上高見通し：同+20%後半を想定。

4. 従前より会社は 3D NAND 向けの Hybrid Bonding の事業機会を示しているが、現況を確認したい。

- 5 月説明会での説明と大きく変化は無いが、複数顧客での評価が順調に進んでおり、中には追加の評価機を顧客工場で出荷する計画も出ている。
- 現時点では、2026 年度下期頃から、Hybrid Bonding の量産適用が進むと想定している。顧客とのディスカッションでは、10 数台/月の発注が行われる可能性も示唆されている。

5. 決算説明では八王子新工場(東京都)に関する投資にも触れていたが、当社の各工場に関する進捗や、現在の生産稼働率などを説明いただきたい。

- 4-6 月期は、八王子市内で新工場用地を取得するための着手金が発生。この工場は、長期的目線で計画しているもので、具体的な建設計画は 2026 年中には確定させたい。今後、PLP 需要の拡大などを鑑みると、重量が大きく、フットプリントも大きい装置の需要が拡大すると見込まれるので、1 階フロアで十分な生産スペースが確保できるような工場を建設してゆきたい。
- Hybrid bonding 向けを含むグラインダの能力増強を目的に建設を進めていた名古屋工場(愛知県)は、この 7 月に計画通り完工した。8 月に竣工式を執り行い、順次生産活動を開始してゆく。
- プローバの主要生産拠点である飯能工場(埼玉県)は、人員・部材・スペースそれぞれの面でフル生産に近い状態となっている。とは言え、効率化等を通じてさらに生産量を高めることは可能と考えている。

以上